



みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)

<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行：2017年1月 医療連携センター

Contents

- 2017年のご挨拶…………… 1
- 新任医師のご紹介…………… 3
- 整形外科の診療について…………… 2
- 第21回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会開催のご報告… 4
- 当院における糖尿病診療…………… 3

2017年のご挨拶



横浜市立みなと赤十字病院
院長 四宮 謙一



明けましておめでとうございます。

まずご報告することは、昨年4月に当院がDPC 2群に指定されたことです。近隣の先生方のお力添えに加えて、目標に向けた職員の努力が報われた結果と喜んでおります。関係の皆様方に心よりお礼申し上げます。

さて、2016年度になり紹介率は100%近く、また逆紹介率も80%前後を維持するようになりました。その結果、外来患者数は減少いたしました。入院患者数、手術数などの診療実績が着実に向上しています。これも、医療連携センターを介した地域の先生方との意見交換や研究会等々、登録医の先生方と当院とのつながりが緊密になってきた結果であると考えています。

昨年ご報告いたしました循環器内科と心臓血管外科からなるハートセンターはますます症例数が増加しており、この地域で期待される役割を果たしてしていると考えています。がんセンターにおいても、がん相談室やがんサロンの充実、横浜・川崎がん病連携会の拡大、またがん登録数や緩和ケアセンターへの受け入れ数の増加等々、地域がん診療連携拠点病院として確実に実績を上げています。さらに脳血管障害患者に対する神経ラインを立ち上げて、24時間365日対応するようになった結果、脳血管障害の救命、重篤化防止に大

きな役割を果たしはじめています。人間ドック検診は、PET/CTや3T-MRIなどの高機能画像検査を導入した結果、受診者数とがん発見数が急速に伸びています。今後も病院併設型の特徴を生かした地域に根差した疾患予防に努めていきたいと考えています。

さて2016年4月からの新戦力についてご報告します。田口享秀部長を中心とした待望の耳鼻科チームを横浜市大から迎え、牧山副部長と共に4人体制で強力な布陣となりました。もちろん新井基洋部長はめまい・平衡神経科部長として全国から救いを求めるめまい患者さんを従来通り受け入れています。

また新たに野田政樹副院長が4月に赴任いたしました。骨粗鬆症病態解析や骨粗鬆症薬開発に関しての世界的権威であり、今後は登録医の先生方と共にこの地域の骨粗鬆症撲滅に大きく貢献できるのではないかと考えています。さらにこれを転機として、ロコモティブシンドロームの啓蒙と防止にも力を入れたいと考えています。

以上のように当院の病院機能は着実に向上していると考えていますが、それだけに医療の安全のために、相応の品質が担保される必要があると考えています。そこで、次年度にかけて医療の品質管理部門を育成してまいります。

日本は人類史上経験したことのない超高齢化社会を迎えており、2025年に向かって効率的な地域完結型医療が待たなしで望まれています。当院は地域の高度急性期病院としての役割を果たすつもりですが、皆様のご指導とご鞭撻があつてはじめて機能できると考えています。

改めまして、本年もよろしくお願い申し上げます。

整形外科の診療について ~運動器の総合診療科として~

手外科・上肢外傷整形外科 部長 若林 良明

脊椎・四肢の運動器の外傷・疾患に対する治療ニーズは、社会全体の高齢化やスポーツの振興に相まって高まる一方です。その需要と期待に応えるべく、当院整形外科は開院以来、診療体制を徐々に整備し、現在は小森博達（副院長・整形外科部長、昭和57年東京医科歯科大学（以下、医歯大）卒）のもと、3診療部体制で日々の診療にあたっており、平成27年度は1235件の手術を施行いたしました。

整形・脊椎外科部は、沼野藤希（部長、平成9年山梨大卒）、角谷智（医長、平成17年東京医科大卒）と小森の3名を中心に、低侵襲で安全な脊椎外科治療を提供しています。単椎間の腰椎椎間板ヘルニアや、腰部脊柱管狭窄症は内視鏡下椎間板摘出術/後方除圧術（MED/MEL）を取り入れ、2椎間以上の狭窄症や固定術併用例においても術式を改良してできる限りの低侵襲化に取り組んでいます。また高齢者の脊椎椎体骨折に対するバルーン椎体形成術（BKP）も積極的に取り入れています。

整形・関節外科部は、浅野浩司（部長、平成5年医歯大卒）、結城新（医長、平成16年鳥取大卒）の2名を中心に、膝や足の疾患・外傷を主に担当しています。中高齢者の変形性膝関節症に対しては、人工関節置換術（平成27年実績52件）のみならず、関節を温存し荷重軸の適正化で疼痛の緩和を図る高位脛骨骨切り術（平成27年実績25件）を積極的に行っています。また結城医長はFC町田ゼルビアのチームドクターを務めており、スポーツ外傷/障害の

診療にも積極的に取り組んでいます。

手外科・上肢外傷整形外科部は、若林良明（部長、平成4年医歯大卒）、品田春生（副部長、中国医科大卒、平成9年日本医師免許取得）、能瀬宏行（医長、平成11年医歯大卒）の3名で、肩から指までの上肢の疾患、外傷を担当しています。上腕骨の近位端・遠位端、肘頭、橈骨遠位端の骨折等に、最新のロッキングプレートを駆使して骨接合術を行い、患者さんの早期ADL回復・社会復帰に貢献しています。また肩関節鏡視下手術として腱板修復術や反復性肩関節脱臼に対する鏡視下制動術の他、難治性の肩関節拘縮に対する鏡視下肩関節授動術も積極的に行っています。なお若林は日本バレーボール協会のメディカル委員会に在籍し、手のスポーツ外傷/障害の診療にも積極的に取り組んでいます。

整形外科の全領域で急増している手術症例は、高齢者の骨粗鬆症を背景とした脆弱性骨折です。当院は急性期病院のため骨折に対する手術療法に邁進してきましたが、開院から11年が経過した今、基礎疾患である骨粗鬆症の治療が十分に行われず、別の部位を再骨折して来院する例を経験するようになりました。脆弱性骨折例には当院の全身DXAにて骨粗鬆症の状況を正しく把握することで、地域のかかりつけの先生方と協力して再骨折予防のための骨粗鬆症治療にも貢献したいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



平成9年同期 沼野医師 品田医師



整形外科メンバー

当院における糖尿病診療

内分泌内科 部長 太田 一 樹



内分泌内科メンバー

当院は開院して10年が過ぎ、お蔭様で地域の先生方からの糖尿病患者のご紹介も増えました。H27年度の糖尿病の治療・教育目的の入院は260名でしたが、その多くがご紹介頂いた患者さんです。内分泌内科医師も増え、現在は医師7名：渡辺（S57年卒、副院長）、太田（S61年卒、部長）、小松（H23年卒）、宮村（H24年卒）、林（H25年卒）、足立（H26年卒）、小蒲（H26年卒）で診療を行っています。H26年に多職種よりなる糖尿病サポートチームを結成し、チーム医療も行っております。糖尿病教育入院では、5日間入院、12日間入院のパスを用いて教育をおこなっておりますが、糖尿病サポートチームメンバーが教育指導を担っております（表）。糖尿病患者透析予防外来も行っています。2014年の統計では、日本で年間15800人が糖尿病を原疾患として透析導入に至っており、これは透析導入全体の43.5%で原疾患として第一位です。血液透析は年間約500万円の医療費がかかり医療経済的にも問題となっています。現在当院では早期糖尿病性腎症の方を対象に、医師、看護師（糖尿病認定看護師または療養

指導士）、管理栄養士が同一日にパスに従って指導を行っております。最近フットケア外来も開設しました。糖尿病性足壊疽による下肢切断も日本で年間3000人位に行われています。下肢切断は、日頃より適切なフットケアを行えば予防可能です。当院では研修を受けた認定看護師が、ハイリスクの糖尿病患者を対象にフットケアの必要性や爪・足の手入れの仕方の指導、爪切りなどを行います。

以前もご紹介していますが、地域医療連携の一環として、公開講座である糖尿病講習会を月1回開催しております。当院通院中の患者さんのみならず、他院通院中の患者さんや地域医療機関のスタッフの方など、どなたでも参加可能です。参加費無料、事前予約不要です（スケジュールは当院ホームページ内分泌内科参照）。また他院通院中の患者さんに対する栄養指導も請け負っておりますので、是非ご利用下さい。

最近の糖尿病診療に関する話題として、昨年の日本糖尿病学会学術総会で新たな「高齢者糖尿病の血糖コントロール目標」が発表されました。従来の指標と違うのは、患者さんの認知機能やADL、併存疾患の状況などにより3つにカテゴリー分けされ、重症低血糖を起こしうる薬剤を使用している場合はHbA1cの下限值も設けるというものです。例えばスルホニル尿素薬を内服していて中等度以上の認知症のある場合、HbA1c7.5～8.5%の間にコントロールしましょうということになりました。今後認知機能、ADL、サポート体制等患者さんの全人的把握をしたうえでの診療が必要となり、糖尿病はかかりつけ医の先生における診療が中心になってくると思われます。我々は、その診療のお手伝いできればと考えております。

糖尿病教育入院スケジュール（12日間の場合）

	午前	午後
月		入院
火	合併症検査等	16時オリエンテーション
水	10時医師講義1（糖尿病とは、糖尿病の検査）	15時集団栄養指導（管理栄養士）
木	10時運動実技（理学療法士）	15時薬剤師講義（糖尿病薬の話） 個別栄養指導1回目
金	10時医師講義2（慢性合併症、運動療法）	14時 糖尿病教育用DVD視聴
月	合併症検査等	
火	合併症検査等	
水	10時医師講義3（急性合併症、その他合併症）	15時看護師講義1（日常生活上の注意、フットケア）
木	10時運動実技（理学療法士）	15時看護師講義2（旅行時の注意、災害時の備えなど） 個別栄養指導2回目
金	10時医師講義4（糖尿病の治療）	退院

新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介します。今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願いいたします。

*** 質問項目 ***

①診療科(専門領域) ②取得認定医 ③卒業大学 ④卒業年度 ⑤趣味 ⑥地域の先生方へ一言!

コウダイラ ユウジ
公平 勇二



- ①整形外科
- ③東邦大学
- ④平成26年
- ⑤スポーツ観戦、旅行
- ⑥「一生懸命頑張ります。よろしくお願いいたします。」

アキヤマ メグミ
秋山めぐみ



- ①内科(血液内科)
- ②血液専門医
- ③浜松医科大学
- ④平成21年
- ⑤旅行
- ⑥「よろしくお願いいたします。」

第21回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会 開催のご報告

医局学術 太田 一樹

去る10月11日(火)ホテルモントレ横浜で第21回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会を開催しました。

本研究会は、近隣4区(中区・南区・磯子区・西区)医師会医師と、当院医師の顔の見える連携構築のため、毎年開催する研究会です。

今年度は中区医師会にご担当をいただき、約100名の先生方にご参加をいただきました。

今回の内容は、中区医師会から秋山眼科医院 院長 秋山修一先生に「糖尿病網膜症 新しい検査と治療」のご講演をいただき、当院からは消化器内科の先田部長が「肝癌治療の現状」を講演し、また整形・関節外科の浅野部長が「変形性膝関節症に対する手術治療」を講演しました。

研究会終了後は、情報交換会を開催し、交流を深め、大変有意義な会となりました。



中区医師会 向山会長



中区医師会 秋山眼科医院
院長 秋山 修一先生



研究会風景

紹介患者さんのお問い合わせご予約は医療連携課

電話 045-628-6365 (直通) / FAX 045-628-6367 (直通FAX)



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 神奈川県横浜市中区新山下3丁目12番1号
TEL 045-628-6100(代表) FAX 045-628-6101